キャラクター名

真月零

プレイヤー名

ポジション	オートマトン	**享年**	10歳
メインクラス	バロック	**暗示**	5 罪人
サブクラス	ステーシー	**寵愛点**	0

初期配置	煉獄
最大行動値	13

能力値	クラス	修正	合計
武装	1	0	1
変異	3	0	3
改造	0	4	4

記憶のカケラ	内容
死の訪れ	手だけが残れば、対戦にも勝てる。私の元に届いて、働き続ければ、当たりが来ると思った。そうしたら誰かが言った。「当たりだって？」と。そう言って差されたのは、すっかり変わり果ててしまった自分の顔だった。一つ目の「死の訪れ」を最終決定してしまったのだろうか。俺の問はだと思う。現実を受け入れることしかできなかった。でも、それでも自己嫌悪に陥ったのだ。
64 凌辱	僕には産まれた時から居場所なんてなかった。すぐに捨てられた。人間としてすら扱ってもらえていたのだろうか。モノとして売られるのをただ待つだけだった。□□□□□□□□あの時までは
物語	恐怖と共感の顔。僕がそれを鏡に映した時、俺にこのキャラが出てこいと、もう見ることは出来ない表情の顔色。いつ出ようかいや！表情を見て取れない。八重の表情を見てあれい。八重は理解していておい。表情だけを見ていたい。もう自色を見てあれい。八重は理解していておい。表情だけでなかってもチラシいいかと思って。表情にパーポーラ有のくっていた。
謝罪	俺はここで最期を迎える。俺には、俺には本当に辛い。誰かいにとりいてしまった。でも、それでもそこが生きていてほしい。俺の最期に、まった自分を見るのが怖かったのに。最期に見た俺のは金属のかけらでも赤い八重。いつか一緒に冒険のような妄想しよう。そう言って言った。台前の事をやってたカったのに。
願いごと	『ここまんの顔をやっと人間ってやれていた。もう死ねなんて、働いの手なんて本ないと思っていた。絶対に謝りたかった。それまでどこっが生きていてくれと。明日がやなくとそこの自覚にだけ無が重いかった。でも一もしまさに、俺の自覚後のここからはおこどが出来るのかなーと。そう思った。

未練

対象	種類	狂気点		発狂時ペナルティ
たからもの	依存	3	①②③④⑤	パーツとして所持。破壊で狂気点+1
遊馬	友情	3	①②③④⑤	
凌牙	友情	1	①②③④⑤	
アストラル	信頼	0	①②③④⑤	
零	依存	0	①②③④⑤	
		1	①②③④⑤	

マニューバ

タイプ	損傷	名前	使用	タイミング	コスト	射程	効果
ポジション		無茶		オート	効果参照	自身	コストとして、任意のパーツを損傷。行動判定・攻撃判定・切断判定を振り直してよい。
ポジション		煉獄の檻		オート	なし	自身	煉獄にいれば、ターン終了時に行動値をマイナスにしなくてよい
メインクラス		歪極		オート	なし	自身	変異3パーツを追加取得
メインクラス		再生		ダメージ	1	自身	防御1、1ターンに何度でも使ってよい
サブクラス		庇う		ダメージ	0	0〜1	対象が受けたダメージを、代わりに自分が受ける。1ターンに何度でも使用可
サブクラス		平気		オート	なし	自身	BPにおいて、パーツを損傷しても、ターン終了までそのマニューバは使用できる
サブクラス		肉の盾		ダメージ	0	0〜1	ダメージに付随する効果全てを打ち消す
サブクラス		復讐者		オート	なし	自身	白兵・肉弾攻撃出目+1
				オート			
頭		のうみそ		オート			2
頭		めだま		オート			1
頭		あご		アクション	2	0	肉弾攻撃 1
頭		よぶんなあたま		オート	なし	自身	最大行動値+2
頭		リミッター		オート	なし	自身	BP中にこのパーツが損傷した時、最大行動値+2　効果中は修復不可
				オート			
腕		こぶし		アクション	2	0	肉弾攻撃 1
腕		うで		ジャッジ	1	0	支援 1
腕		かた		アクション	4	自身	移動 1
腕		釘バット		アクション	2	0	白兵攻撃1+爆発
腕		ガントレット		オート	なし	自身	腕のみ、常に「防御1」、腕部にある肉弾・白兵攻撃マニューバのダメージ+1
腕		アクセサリー		オート			本来の力を使うことができない…！
				オート			
胴		せぼね		アクション	1	自身	次カウントで使うマニューバ 1 つのコスト-1
胴		はらわた		オート			
胴		はらわた		オート			
胴		しんぞう		オート	なし	自身	最大行動値+1
胴		うろこ		ダメージ	1	自身	防御2